

## 涼しく暮らすために

### 契り

「汝は健やかなる時も病める時も、変らぬ愛をもってこの犬と暮らすことを誓いますか？」  
「はい、誓います」

というわけで、悪戯の天才と呼ばれるにふさわしいラブラドル・レトリバー、ノイとの生活が始まってから、早や七年、その間、壊す・汚すに始まって、病氣や小生の単身赴任などなど、いろいろありました。しかし、三年目の破局も、七年目の浮気もなく、ノイは、今日もわが家のアイドルスターを演じています。

今の世の中、何秒とかに一組が離婚する時代、ハネムーンから帰ったとたんという例さえ耳にする。自活して行ける人間はそれでもよいけれど、人間の庇護なしでは暮らせない犬が相手では、それは許されない。平均十五年といわれる犬生、手間もかかれば費用もかかる。しかし、それを乗り越えた人だけが、子供の頃、羨望と憧れをもって見たアメリカ映画の一場面のような、素晴らしいラブラドルとの生活をエンジョイできるはずである。さあて、ノイとの生活を満喫するために快適に暮らすには……。

## 正装

ばたん、ばたん・・・・・・・・ばたばたばた!

ようやくベットから起き上がったこちらの服装が、ポロシャツ、短パンといった普段着を身に着けていくにしたがって、壁を叩くノイの尻尾の音が激しさを増す。

「うむ、よしよし。今日は家に居るんだな。よかった!」

ノイの目には、喜びが溢れ、三度笠お耳でとたとたとやって来て、短パンの裾を鼻先でちよんと突いて、確認する。

その日の服装が、一日の行動を決定することを、ノイは熟知している。ワイシャツにネクタイ、これは駄目。白いズボンに糊のきいたシャツ、これも駄目。水着、ワイイー! やったあ!一緒に泳げる……。ノイが一番好きなのは、公園の芝生に座り込めるぼろズボン。かといって、こちらもそれなりに立場があるので、そういつも、ぼろばかり着てはられない。

その点、ブラックのノイは、常時、第一正装である。艶やかな黒毛は、立襟にブラックの蝶ネクタイでも締めればタキシード、ホワイトのタイなら燕尾服・ならぬオツターテイル服か。清潔にさえしていれば、何処で誰に会っても「かっこいい! きれいだあ!」と囃される。しかし、常時正装というのも、特に真夏の暑い日には、身に着けているのが気の毒だ。

唐の詩人、杜甫は官仕えの夏の日、「束帯すれば狂を発し大叫せんとす」と呻いたそうだ

が、ノイもステテコに甚平、Tシャツに短パンといったスタイルになれないのが辛いところ。

「暑いよ！ スイッチ入れよう。そして、皆で涼も。」

ハアハアやっているのはいかにも気の毒で、つついクーラーの中で一日の大半を過ごさせてしまうといった日が多い。犬も風邪をひくし、クーラー病にも冒される。

重要なビタミンや皮膚の健康を考えれば、紫外線を浴びるために日光浴も必要だけれど、吸収率抜群のノイは、炎天下でたちまちゆで蛸になってしまう。同じ時間、太陽に当たった黒毛の子とイエローの子を触り比べてみると、その差は歴然としている。日射病・熱射病にかかる確率は、イエローの子よりブラックの子の方が、格段に高そうである。

ノイの遠い故郷は、北緯五〇〜六〇度のラブラドル半島やニューファンドランド島といわれる北の国。祖先は黒毛だったらしいが、高緯度で太陽光線の照射角度が低いから、もともとは効率的な黒毛だったのだろうか。だから、彼女は冬になると、艶やかな黒い直毛の下に、ふわふわのダブルコートの下着を着けている。春になると、このふわふわの下着は脱ぎ捨て、直毛の方もずっと薄くはなるけれど、毛皮の正装は変わらない。短毛とはいえ、チワワなんかみたいに、メキシコのような南国産とは違って、二〜三センチの長さがある。ラブラドルは暑さに弱い。

犬の適温は一般に十五〜二十度、湿度は四〇〜七〇割といわれている。ノイもふたりもこの

位の気温は大歓迎。一年中そんな適温の地に住みたいけれど、残念ながら、貧乏なふたりはカナダにも軽井沢にも、お別荘を持っていない。文明の利器クーラーの弊害に気を遣いつつ、炎暑の夏を過ごすのみ。

見たなー

日本の夏は湿度が高い。ラブラドルはブルドックやボクサーと違って、口吻は長い部類に入るから、体温調節はし易い方だろうが、自分ではなんとも仕様の無い湿度の高さは、皮膚の疾患を誘発しがちである。

「ね、ね、あっちのお部屋でテレビ見よう。」  
夕食のデザートが終わると、ノイはふたりを色っぽい目で寝室へ誘う。ベットの上で、ふたり+ワンでくつろぐのが、ノイの楽しいひと時である。おもちゃ箱の中から、次々に大小のガムや色とりどりのボールを運んで来ては、テレビに向いているふたりの視線を引こうとする。

「ほーら、ごろんちゃん。ごろんちゃんしてごらん。」

そんな時間はまた、ノイの全身点検タイム。女房殿の言葉に、ノイは頭を擦り付け「可愛い、可愛い」をして貰った後、ひっくり返って大股開き、両腕を宙に挙げ「オバケーだぞう。・・・」の格好になる。

目や口吻周りの柔らかい部分、耳、肘、指の割れ目、足の裏から水掻き、胸からお腹に尻尾の裏側と、仔細に点検して行く間、ノイは大人しくオバケーを続けている。皮膚病にはいろんな原因があり、その種類も極めて多いけれど、早期発見がなによりだ。もちろん、発見しただけでは何にもならない。即、症状に適した治療が必要となる。一刻も早く、信頼の置ける獣医さんに診て貰うのが第一だ。そのうち様子を見て病院に連れて行こう・・・なんて思っているうちに、小さな点であったものが全身に拡がってしまったかわいそうな子の例は、枚挙にいとまがない。

ノイは専用の薬箱をもっている。軟膏・液状・飲み薬・塗り薬・消毒薬・点眼薬・点耳薬から胃腸薬、ガーゼ・脱脂綿・絆創膏からピンセット・爪切り・体温計、抗生物質系・非抗生物質系、フィラリヤの薬のように常時使う物から、一年間蓋を取らない物まで数えたら、人間の富山の置薬より多そうだ。起こり得ると思われる諸症状を想定して、獣医さんに分けて戴いた結果である。もちろん、素人診断は危険だから、継続的な使用は獣医さんに判断を仰いで行うが、往診を待つ間の初期治療の効果は大きい。幸いにも、出番がなくて古くなった薬は、新しいのに取り替えておく。

だが、どんな名医に、いくら良い薬を貰っても、それを処方通りに使用しなければ宝の持ち腐れ。当たり前だが、これができない人も多いのが実情のようだ。根気よく手当てを要する皮

膚病の場合などは、特に、手抜き治療は厳禁である。ラブラドールは我慢強過ぎて、よほどのことがない限り、痛いも痒いも苦しいも言わないから、忙しさに紛れて、「今日はさぼったけど、まあ、いいっか・・・」では、看護人失格。ラブラドールも根気が良いけれど、飼い主たるもの、皮膚病の治療には、より根気を要するのである。

「はい、大丈夫。点検一丁上がり！」

お尻をぼんと叩かれて、オバケはぱっと身を翻し、垂れ目の目尻をより下げて、

「ありがと、ありがと。ベリ サンキュー！」

とばかりに、再び、頭擦り擦りの、獅子舞スタイルのベリーダンス。

#### 衣替え

というわけで、今日もノイが健康なのは結構なのだが、ベットの今は「けっこう毛だらけ・・・」、ふたりの寝間着もついでに毛だらけ・・・。ノイの体毛は、常緑樹のようなもので、一度に抜け落ちることがない代わり、常時少しずつ抜け代わっている。しかし、一番それが激しいのは、やはり、冬から春、夏に向かう季節である。

春には、櫛やブラシを使って、アンダーコートのみふわふわ下着を脱ぐのを手伝ってやるが、これも自然に少しずつ気温に合わせて抜けてくるわけで、一気に取り去るわけにはいかないか

ら小間目な手入れが必要だ。死に毛が着いたままだと、せっかくの正装も、艶やかさを失って形なしである。夏に向かったの、つんつん毛の抜け方も凄まじい。愛犬の抜け毛でセーターを編んだ人がカナダにいたけれど、その気ならば、ノイは苦もなく黒いセーターの原料を提供してくれる。

「この床、さっき掃除したばかりよー！」

「あら、まあ！ コーヒーカップにまで、はいってるわ！」

女房殿は悲鳴を上げる。

「黒い絨毯。純毛一〇〇パーセント。ありゃ、水割りのグラスにも……。ま、いいつか。

ノイすけ綺麗に洗ってあるもんね。」

「すみません。」といった顔のノイを見ると、女房殿の顔も緩んでしまう。

「ノイちゃん。コロコロしましょ。」

女房殿は、ローラー式になっているコロコロの粘着紙をはがして、ノイを呼ぶ。頭から順に尻尾まで、何枚もの粘着紙があつたという間に真っ黒に変わってごみ箱へ。直接コロコロをかけるのは、生きている毛まで引っ張られて痛いのではと、心配したのは杞憂であった。ノイは、気持ち良さそうに目を細めて、身体を伸ばし、手を停めると、もっとやっつてと前足で催促。一頻りノイのコロコロマッサーズが終わると、抜け落ちて周りに散った毛の始末が必要になる。

ノイに、ふたりのベットへ上がることを許可した後、ベットから毛布が消えた。集めると筆ができてさうなほど腰の強いつん毛は、見事に毛布に突き刺さって、掃除機でも取れないし、コロコロでは毛布の毛と一緒に抜けてしまう。いろいろと試みた結果、わが家ではタオルケットと羽毛布団の組み合わせに落ち着いている。羽毛布団の生地は目が細かいからつん毛も刺さらないので、毛はコロコロで綺麗に取れる。冬はその上でくつろぐことが多いから、羽毛布団が汚れることは否めない。クリーニングも大変だから、高価な物ではなく、抜け毛が目立つように白っぽい無地の実用的な物を使っている。タオルケットは織り方にもよるが、意外に毛が刺さらないし、洗濯も簡単である。

先頃、わが家は掃除機を買い替えた、先端の吸い込み口にモーターの付いたターボ式とかいうやつで、絨毯にささった脱毛を簡単に掻き取ってくれるので、何度も同じ場所を往復させなくて済むから、掃除の時間が半減したと、女房殿はとても喜んでいて。絨毯掃除についてついでに言うとおけば、時々、フリフリカーペットみたいな掃除用の薬品を使って、何十萬匹も住んでいるというダニの駆除にも努める必要がある。これは、ついでに生活臭も一掃してくれる。

ノイは、よく片足を投げ出したラブ座りで、壁に寄り掛かって座っているから、必然的に壁にも毛が付く。布地の壁紙は禁物である。布地に食い込んだつん毛を取るのは大変な苦勞



がいたので、インテリアには制限を受けるが、なるべくつるりとした壁紙を選んだ方が、掃除は楽である。

### お風呂

ノイの入浴は、お大名のお姫様が横綱の入浴である。つつ立って居ればお付きの人が洗って、流して、拭いてくれるなんて幸せを欲しているのだけれど、蜜月時代をとうに過ぎたふたりの間では、それは一向実行されない。ノイだけが、必ず週に一度はその幸せを体験する。はずなのに、彼女は自分で、なんとか手の届かない背中を洗おう、なんて苦労をしたことがないから、洗ってもらっている間中、それ程幸せそうな顔も態度も示さない。

「お鼻にお湯かけないでよ。むにゃ・・・シャンプーが唇に流れて来たわよ！」

ぬるま湯で全身を流して、シャンプーを付ける。頭から始めて顔、耳、首筋、肩、背中、腹、尻、尻尾、そして四肢と洗っていくこちらの手順を、長年の間にすっかり覚えてしまったノイは、首を伸ばしたり、足を挙げたりして協力してくれる点、お大名の姫君よりましなのが、「からす」と同じ毛色のせいか、「からすの行水」的早風呂志願。水遊びや水泳の時は、平気で顔を水の中突っ込む癖に、顔にお湯を掛けられるのが大嫌い。何でも遊びにしよう幼児期に、溜め水洗いではなく、もっとシャワー遊びを取り入れておかなかったのが、失敗

だったかも知れない。もっとも、子供の時には、湯槽の中から飛ばす、手のひらの水鉄砲を、顔中びしょびしょにして、口で受け止める遊びが大好きで、懲りずに続けた結果がこれだから、遊びと実用の違いを、敵はすっかりわきまえているのかも知れない。

シャンプーは、ちょっと硫黄臭いけど、蚤が就いたことがない。蚤はこの臭いが嫌いらしい。どこかの子と遊んで、仮に蚤が移っても、蚤の卵がかえるのが五・六日目、週に最低一回、定期的にこのシャンプーを使った入浴で、「犬猫には蚤が居るものだ」という変な常識は打破できる。

入浴はまた、むだ毛を取るのにもよいチャンス。シャンプーの前に、丁寧にブラッシングをしてやると、浴後に目立つふけもほとんど出ない。

「はい、おしまい。ブルブルなさい。」

次に、タオルケットを拵げた脱衣場上げる。全身これ毛だらけだから、普通のバスタオル一枚ではとても足りない。その点、タオルケットだと一枚ではば間に合うし、自分で転がって拭く子には、大きく重みがあるので、ずれても用が足りる。これで荒拭きをした後、バスタオルでもう一度拭き取ってやる。

「わー、終わった、終わったーい！」

獅子舞スタイルのノイト、暫しのマタドール。闘牛ごっここの大騒ぎも、幼児期からの習慣な

のか、七歳過ぎても未だやっている。

「ね、もういいでしょ！ 早くバスタオル頂戴。」

闘牛ごっこで荒拭きを終え、バスタオルをくわえたノイは、仕上げ拭きをして貰うために、二階の女房殿のもとへ、足取りも軽やかに飛んで行く。やれやれ、この後、自分の身体を洗うのは面倒くさい。ああ、お姫様が羨ましい。

パットの臭い消し、なんて芳香剤の宣伝を目にするけれど、ノイには無用である。臭くなるとすれば、お耳か、お口、汗腺のある足の裏、肛門の臭い袋くらいなもので、身体は、人間と違って分泌腺がほとんどないから、埃臭くなる前にお風呂に入れてさえいれば臭くない。

ノイは、寝る前に必ず女房殿に歯磨きをして貰う。最近はブラシではなく、指に巻き付けて拭き取る式の、ガーゼ状の製品も出回っているから、面倒くさがらずに手入れをしてやれば、臭いお口で嘗められることもない。足は、一日二・三回トイレに行く度に拭くし、散歩から帰ると必ず洗う。ついでに蒸しタオルで全身も拭くから、埃臭いこともない。臭いのは、うっかりするとノイよりこちらかも知れない。

### シーズン

「ノイノイ、気にしない気にしない。パンツ着けてあげるから……。」

と言われても、ノイは、自分で汚した跡が気になって仕方がないらしい。ノイも女の子だから、年に二回は正確にシーズンが巡ってくる。たとえ絨毯や毛布を汚しても、ぬるま湯をかけて軽くこすり、ティッシュで押さえれば綺麗に取れてしまうけれど、やはり汚さない工夫をする方が、双方にとって得策であろう。

ノイが若かりし頃、毛布に付けてしまった汚れを、明日洗えばいいやと、そのままに置いていたところ、ふたりが寝鎮まった後、日頃、女房殿が汚れた部分にぬるま湯をかけては、拭き取っている様子を観察していたノイは、自分で始末しようとして、べろべろ管め取ろうと試みたようだ。しかし、いくらやっても取れなかつたらしく、翌朝、汚れの部分だけ綺麗に咬み取られた毛布の穴が残されていたことがある。毛布がパアになるのも困るけど、汚れを気にするノイも気の毒だ。煩わしいかも知れないが、何かを履かせてやることにした。

人間のパンツに尻尾の出る穴を開けて履かせたり、紙おむつに手を加えたりと、二十日程は続くこのシーズン、女の子の居るお宅ではいろいろ苦労がおりるようだ。日本では中・大型犬が室内で暮らすケースがまだまだ少ないせいか、それ用の製品を見たことがない。たまに外国に出かけると、ふたりは有名ブランド店は素通りして、ペット用品店ばかり覗いているから、ノイは欧米のいろんな製品を持っている。ビニールやニット製のそれは、交換式のパットが用意され、ぴったりフィットして格好良いのだが、ご存じラブラドルの柔軟な胴周り、

立っている時はいいのだけれど、どでんとラブ座りでもして居る時は、伸縮性はあるものの、腰にベルトが食い込んで、なんとなく気の毒だし、時々は自分でも鼻先でメンテナンスがしたそうなのだが、びったりし過ぎてこれも無理。汚さないという点では満点なのだが、自身もキリッとし過ぎのブリーフよりは、ゆるふんスタイルに近い方が好みの当方としては、見るに忍びない。

日本育ちのノイ子のために、女房殿は伝統の越中禪風のものを作り上げた。材料も作り方も簡単で、着け心地も良いらしく、ノイもお気に入りの様子なので、紹介しておく。

#### 〔材料〕

浴用タオル

一本

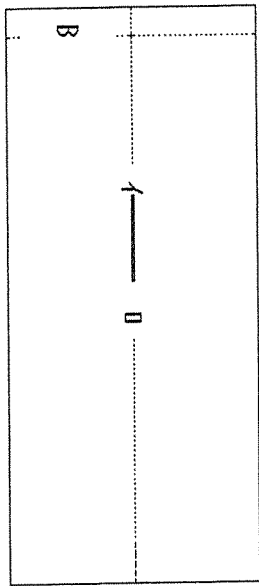
着物のマジックテープ付き伊達締め

一本

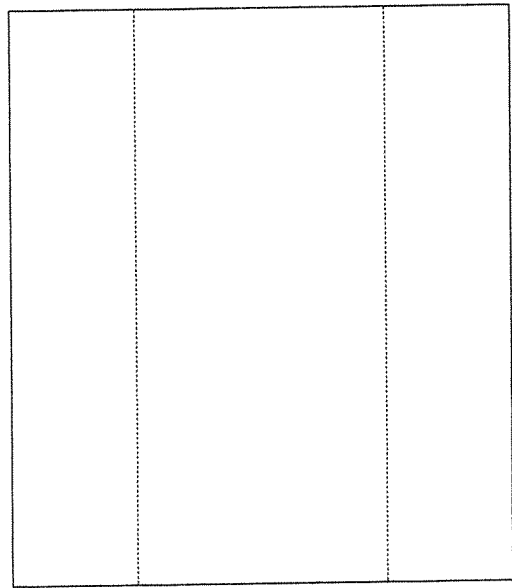
(伸縮性のある柔らかいベルト状の物が呉服屋で簡単に手に入る)

#### 〔作り方〕

①点線の位置で折り、左右から付き合わせて留める。

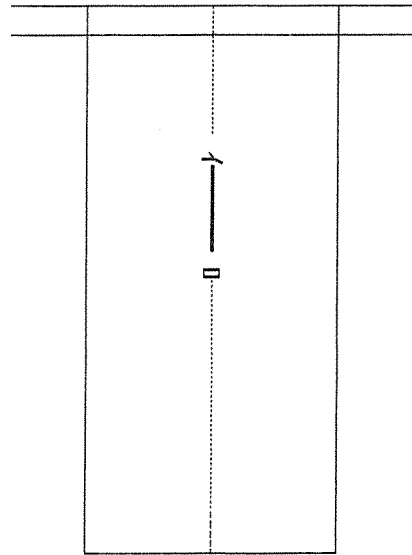


② — □ (尻尾の出る部分) を切り、縁をかがって貫抜き留めにする。



③ 付き合わせたAのラインが重ならないように付け合わせて留める。

④ 点線Bから折り返して伊達締めを通す筒を作る。



↑伊達締め

⑤ 筒になった部分に伊達締めを通してできあがり。

【履かせ方】

縫い目を外側にし、Cの部分がお臍の下辺りに来るように 回してマジックテープのワンタツチで留め、——の穴に尻尾 を通す。Dの部分を引き張り出して背中に回し、伊達締めの下に挟んで着用完了。これで結構外れない。

これを何本か作っておいて、汚れたら取り替える。洗濯は 伊達締めを抜いて、タオルの部  
分だけすればよい。外出には 毛色と同色のタオルで作ってやれば、安心はできないが、ちょ  
っとした男の子避けの貞操帯にもなりそうである。

#### お出掛け

陽気ではしゃぎ屋のノイは、また、好奇心も犬一倍旺盛で、未知の場所へ出かけるのも大好  
きだ。とはいっても、近くなら四本脚で行けるけれど、遠方となると日本の交通機関は、脚が  
四本あるというだけで、犬を締め出す。ショーが終わると、愛犬と一緒に地下鉄に乗って帰っ  
て行くイギリスの風景は、ごく自然に見えるのだが、たまに盲導犬が乗って来てさえ目を丸く  
する日本では、当分、公共の交通機関は忠犬ハチ公の像を、せいぜい、駅前のシンボルに建て  
るぐらいが関の山。改札口に向かって建て変えられた渋谷駅前のハチ公の顔は、心なしか「私  
も電車に乗りたいよー。」と言っているように見える。

しかし、現実の問題として、ノイに改札口の前で帰りを待たせるわけにはいかないから、ど  
こかへ出かけるのは、自家用の車で一緒にということになる。ノイにとって、家族と一緒に  
乗っている車はお家の延長だし、自らの脚で走らなくても、車窓を新しい風景が次から次に過  
ぎていくのだから、嬉しくって仕様がなない。中には車酔いを起こす子もいるようだが、連れて



行かれた先が病院や訓練所や家族に会えない預かり所なんかで、痛い思いや辛い思いをしない限り、ドライブは大好きになるはずだ。まして、行った先で楽しい思いをしてからは、車のドアさえ開いていれば、よそんちの車にだって乗りたがるから、犬さらいにはご用心である。可愛い子ほど、犬泥棒に狙われる。

さて、車で郊外に出かけ、土の上を駆け回った後で、座席に飛び乗られたのではたまらない。シートカバーを外して洗うのは、思ったほど楽ではないし、車から降ろす度に足を洗うのも大変だ。ということで、わが家では、後ろの座席を平らに伸ばして、座席の上に、ダブル用のベットパットを敷いてある。これだとパット自体に重みがあってずれにくいから、座席の間が何かに脚を踏み入れて、くねったり傷めたりすることもなく、取り外しも簡単なので、お裁縫が苦手な方向き。その上にこれもダブルのタオルケットを敷いておけば、汚されても、タオルケットだけ洗えばことが済む。後ろの座席が前にずれて平らにならないタイプの車の場合には、カーシヨップで、空気を入れて膨らませ、前の座席との間を埋めるクッションみたいな物を売っているから、それを使ってベットパットを敷けば、ワンちゃんは後ろの空間を広々と占有することができる。もっとも、人間も後ろの座席に乗るときは脚を投げ出すか、あぐらをかいて座らなければならなくなるが、それもまた寝台車みたいで満更悪い乗り心地のものではない。

独身の頃の友達で、車のトランクの中に、常時旅行用の洗面セットと寝間着から着替えのパンツにバスタオルまで積んでいる、用意周到な奴がいたけれど、近頃のわが家の車には、ノイの排泄物始末用のビニール袋・お遊び用のボール・足拭き用のタオル・バケツからバスタオル、何かで敷くための古毛布までが積み込まれていて、それぞれが時に応じて活躍している。

お出かけが大好きなノイだけど、何時も一緒に連れて行くことは難しい。お留守番はこの上なく悲しいことであろうけど、海外旅行の際など、堪えて貰わねば困る場合も当然起こってくる。ノイは、ある種の人間と違って、

「わーい！ 鬼のいぬ間の命の洗濯！ 大いに羽根を伸ばそう……。」

なんて考えないから、ふたりが何日か留守にするなんて時は、大抵、しよぼくれて生気がない。しかし、お出かけ大好きなノイは、また、自分のお家もずっと大好き。たとえば、家族が何処かへ出かけてしまっても、お家に居れば、必ず、大だい大好きなふたりは帰ってくると信じている節がある。最近流行の豪華なシャンデリアがついていたり、赤絨毯にテレビ付き、面倒を見てくれるお姉さんがいます、なんていうペットホテルより、慣れたお家にいる方がずっと落ち着くようだ。そこで、わが家では、なんとか家に泊まり込んでくれるお留守番の人を捜すことにしている。それも慣れた人が一番。日頃から、家族がいる時に泊まっていたりする人だと、しよぼくれ具合もずっと軽くなる。そんな留守番を捜すのは大変だが、久しぶりに家に

帰ったら、尻尾を三回しか振ってくれなかったというアフガン君に較べ、千切れんばかりに尻尾と腰を振り回し、全身全霊を込めて迎えてくれるノイを見ると、どんな苦勞をしても、お気に入り留守居役を見付けなければという気になるのである。

ウツフツフ・・・

ノイ・ノイノイ・ノイタン・ノイ子ちゃん・ノイちゃま・ちゃまちゃま・・・何時の間にかノイの呼び方も変わってきた。呼称は無意識のうちに人の気持ちを表すもので、七年を経た今、わが家ではノイとの生活によって、生じる不都合は解消され、楽しさばかりが改めて感じさせられる。幸いにも、信頼の置ける獣医さんのお陰で、いろいろな知識を与えて戴いた。「犬の飼方と躰」などという、お決まりの本は出回っていても、「犬と快適に暮らす法」なんてのはお目に掛かったことがない。ささいなことでも、気が付かなかったり、うっかりしたりで、ずいぶん回り道もしたけれど、ようやく何とか形態が定まって、毎日がウツフツフ・・・

これからは、熟年に達したノイのために、別の工夫を考えよう！